

## 悪石島での離島巡回歯科診療同行実習を終えて

5年 飽田 詩織

2013年12月13日23時、悪石島の離島巡回歯科診療に参加するため、私は鹿児島港発の「フェリーとしま」に乗り込みました。行きは寝台付きで、離島診療に不安を感じながらも初めての船の寝台にドキドキしていました。

悪石島はトカラ列島に浮かぶ、人口59人、32世帯の小さな島です。14日午前10時、約11時間の船旅を経て、やすら浜港に到着しました。車で10分程の場所にコミュニティセンターがあり、離島巡回診療車のこじか号から診療道具を降ろし、ポータブルユニットの配線に悪戦苦闘しながらもコミュニティセンターに1台、こじか号の中に1台の診察台を準備しました。



診療の準備中



こじか号

午前11時、島全体に響き渡る、「歯科の診療を開始します」という放送が流れ、悪石島離島巡回診療が始まりました。今回の歯科診療隊は、鹿児島大学病院矯正歯科の植田先生、冠ブリッジ科の塩向先生、衛生士の上野さんと寺尾さん、県歯科医師会の野口さんの計5名で、それに私と浪花さんの2名の学生と学生の引率役の歯周病科の迫田先生、研修医の尾形先生と伴先生の5名が同行しました。

診療ではまず、診療隊の先生により、口腔全体の検診が行われ、その後個々に応じた治療がなされました。コミュニティセンター内のチェアは主に子どもの診療に用いられ、歯面清掃やフッ素塗布、ブラッシング指導、シーラント(予防填塞)などが行われました。島には歯科医院がないので口腔状態が心配でしたが、実際にはきれいで驚くとともに安心しました。いつでも治療できるわけではないのに、やはり島のみなさんの口腔衛生に対する意識が高いからであろうと思いました。また、悪石島の離島診療に何度か参加しておられる衛生士さん達は、島の子供たちの前回までの口腔状態をよく覚えていて、清掃状態が良くなっている子を褒めたり、磨き残しが多いところを細か

くブラッシング指導されていました。半年に1回しか島に来られないので、いかに齲蝕を予防するかが重要であり、子ども達の歯を守ろうという想いが感じられました。

こじか号の中では大人の患者さんの診療を中心とし、義歯の調整やレジン修復、前装冠の修復、スケーリングなどが行われました。こじか号にはレントゲン撮影もでき、齲蝕の進行状態をみたり、根の状態も確認できることに驚きました。しかし、時間を置いて何度か治療しなければならない歯根の治療や、術後の状態を観察しなければならない複雑な抜歯などは巡回診療では困難な場合もあり、暫定的な処置がなされていたのが特に印象的でした。自分が普段している処置ができない状況の時、その場に応じた判断を下せるようになるにはどうしたら良いのか考えさせられました。それでも、巡回診療でできる限り適切な治療をしておくことで、病気の進行をくい止め、本土等で本格的な治療を行う際に、回数や時間を減らして患者さんの負担を軽減できます。そういった意味でも離島巡回診療が役立っていると思いました。6時間の診療時間で、今回は15名の診療が行われました。



実際の診療

診療後は手際良く片付けを行い、悪石島で有名な温泉につかり、宿で美味しいご飯をいただきました。日頃なかなか話す機会のない方達とお話できたのも楽しい経験でした。

最後に、離島巡回診療という貴重な経験をさせて下さった、悪石島のみなさん、指導していただいた先生方、衛生士のみなさんに心から感謝します。ありがとうございました。



全員集合



悪石島の風景